平成２６年９月発行

パートナーシップおかや

NO. １８

岡谷市男女共同参画推進市民の会

男女共同参画社会をめざす

岡谷市男女共同参画審議会　委員　山口　俊雄

連続テレビ小説“花子とアン”の主人公、村岡花子さんの特技をお借りして想像の翼を広げ西暦２０ＸＸ年を覗いてみました。

ある男性社員は、小さな子どもを会社の託児所に預けて、熱心に仕事に励んでいます。昼食時には、子どもと一緒に食べ子どもと過ごしています。男性社員の妻は、別の会社に、やはり社内託児所に子どもを預けて仕事中です。この女性社員は得意な技能を買われて、職場で指導的立場で活躍しています。原則的に、残業は無いのですが月１～２回就業後に部下への指導会を担当しています。男性社員の勤務も残業がないので、連絡を受けて妻の勤務先に寄って、子どもを預かり先に帰宅し子守をしている内に、夕食の買物をすませて帰宅した、妻と協力して家事をしています。家族で夕食後、団欒のひと時を楽しんでいます。団欒後、お互いの明日の仕事の予定や都合を話し合い、出社や退社時間の予定を確認します。予定外のことが発生した場合の工夫も話し合います。

日頃、お互いの会社の上司と、家庭の状況等を共有しておき、困った時の協力を得易いようにしているようです。

朝は、夫婦で６時に起きて朝食作りと、弁当作りや夕食の仕込みを、話し合いながら分担しています。子どもにできそうなことは手伝わせています。

妻は、自治会の役員を要請され、安全防犯委員会の長を仰せつかっています。月一回の役員会と周一回のパトロールがあるので、その日は夫が２人の子守をしています。いずれ夫も、何かの役割を引き受ける時が来るでしょうから、その時は妻が・・・。隣近所の皆さんとのお付き合いや住んでいる所の、維持管理はお互い様で、逃げる訳にはいかないでしょうね。

別居している、両親とは月に２～３回交流し、将来のあり方を話し合うようにしています。両親が元気なうちはこの状態を続け、介護が必要になった時は、介護施設の活用をしつつ、家庭で介護に心を尽くします。会社勤務については、「半日の短時間就業制度」や「在宅勤務」、上司や巡回社員による家庭訪問会議で、「コミュニケーションを絶やさない制度」の活用を図っています。

コツを聞いてみました。夫婦間尊重し合い、お互いの思いや状況を話し合い共有し、実現させる方法や諸制度の活用と、協力して預ける人の活用、会社が諸制度を社員目線で運用する、などなどが挙げられましたが、思いやりとそれを行動に移すことかな～ですって・・・　　こんな社会の訪れることを願っています。

男女共同参画週間（６月２３日～29日）　パネル展示　市民の会主催

カルチャーセンター催事場にて、市民の会の活動記録、昨年募集した小中学生の男女共同参画啓発ポスター入選作品、ホットファミリーかるた等展示しました。

期間中会員が交代で常駐し、入選ポスター入りティッシュペーパー、参考資料等を配布しながら見学者に感想を聞いてみました。

・小中学生の啓発ポスターは色がとてもきれい。
・若い男性は低賃金で結婚に自信がない。
・女性も子どもを産み幸せになろうとしない人もいる。
・都議会でセクハラやじがあったが対処も形式的で、まだまだ男性の意識は変わっていない。
・展示「かるた」は解りやすくてよい。
・男女共同参画はよいが逆差別にならないように。

平成26年度第1回　パートナーシップ講座　　市民の会主催　8月7日(木)

高齢者福祉について考える

講師　国際女性教育振興会　小池　喜代さん

外国の事例も参考にしながら、日本の福祉政策・現状について考え、「男女共同参画」の意味を考え直す機会としたい。そのための話題提供をしたい。と前置きをされた上で次のように話されました。

1、平成 11 年に制定された「男女共同参画社会基本法」の基本精神を忘れかけてしまっているのではないかと危惧している。

2、「自立した人生を歩みたい」と一生継続できる仕事を求め精励してきたが、まだ介護保険もない平成7年に義母が認知症となり、白寿荘のお世話になり仕事を継続することが出来た。

この経験から「ありがとう」と感じ合う「感謝の心」と「福祉の社会化」を強く感じた。

デンマーク「高福祉･高負担」幸福度世界一の国　なぜ?

①福祉政策の根幹に「ゆりかごから墓場まで」を掲げ、国民の間に所得格差があまりない。男女ともに、そこそこに働き税金を納め社会に貢献していると自負している。社会サービスを安価か無料で受けられる。

②収入の半分近くは納税。子どもがいない人の税負担は大きいが, 老後の心配が全然ないので損だとは思わないという。

③子どもが両親の老後の世話をする国ではない。個々が自立し自らの責任で自己決定することが大切にされている。

④高齢者自身も福祉の社会化によりお世話をしてもらっているという意識はない。

オーストラリア　なぜ「中福祉・中負担の国」といわれるのか?

①在宅福祉を進めている。日本と違って立派な建物を作るのではなく、古い学校やアパートを改造、改築してアットホームな心を大切にするやり方である。

②福祉施設の運営は教会（協会）など非営利の団体が行なっている。

③国民皆保険で開業医にかかった場合は85%が保険で担保され、公立病院は無料である。

④公的年金（老齢年金）のほか「私的年金」制度が発達しており80～85%が私的年金に加入。

◇わが国の福祉政策・福祉の現場が抱えている問題点と課題

①生活（人生）の自立性、継続性を尊重する社会の仕組み作りをしてこなかった。これが福祉政策にも福祉の現場にも影を落としている。

②「在宅福祉」といいながら担い手は民間業者で、福祉を営利の目的にしているのではないかと僻みたくなる。

③上記両国とも福祉の現場の従事者は笑顔で接し、日本は入所者も働き手もあまり楽しそうでない。福祉の受け手も担い手も人間としての尊厳が保たれ、循環型社会福祉の定着が求められている。

④福祉・介護に限らず、日本人は生活の仕方を見直し、「男女共同参画社会をめざす」精神の原点を再確認する必要がある。

（三澤　勲）

男女共同参画地域フォーラムｉｎさくほ　平成26年9月6日(土)　佐久穂町生涯学習館

稲穂が色づき爽やかな初秋の佐久平に岡谷市から１５人が参加し研修してきました。

寸劇　「山口家の人々」さわやか佐久穂町ネットワーク（男女共同参画推進グループ）

講演　「元気な地域づくりと男女共同参画」　講師　樋口　恵子さん

講師の第一声がダーウインの「自己改革出来た者が生き残ったのである」に始まり、間違ったと思ったら君子豹変するのは良い。安倍総理はなぜ変わったか?

国の意識が変わったのはいつか

①明治維新　②1945 年（敗戦）　③今、大論争をして自己改革をしよう。

○日本全国大介護時代、ファミレス（家族の繋がりがない）社会がやってきた。

○長寿化･･･要介護者　519 万人（2011）　認知症　305 万人（2012 推計）

○介護者側の変化･･･少子化のため介護家族がいなくなった。「嫁」の消失、家族介護を３割の男性がするようになった。

○地域社会をつくるには･･高齢者が元気に歳をとる。倒れた時安心なサービスを用意する。

○超高齢社会と男女共同参画･･･課題は女性の方針決定への遅れ、女性の政治経済社会への立ち遅れ。ビンボウばあさんの国はビンボウになる。

☆最後に女性と高齢者の活躍を大いに進めようと結ばれました。

（小口光子）

特集 ☆ がんばっている 男性たち ☆

「男の料理教室」訪問　　平成26年9月13日

毎月1回　イルフプラザ・カルチャーセンターで行っている、男性の料理教室の皆さんを訪問しいろいろお話を伺ってきました。

２５年度市で募集した料理教室に応募し、講座終了後有志で立ち上げたグループです。若い栄養士さんを講師に、２テーブルに分れ、始に作り方の説明を聞き、調理方法も本格的で野菜を切る手つきもなかなかのもの、和やかな雰囲気の中手順よく仕上げていきました。

グループの皆さん

講師　栄養士　岡谷区　笠原　由美さん
会長　　駒沢区　宮澤　保仁さん
会の発足　平成25年４月～
会員　　８人
例会毎月第２土曜日 10：00～13：00

当日の　メニュー

ご飯
主菜　ビーフシチュー
副菜　マリネサラダ　焼きなす

＜皆さんに聞いてみました＞

料理教室へ参加した動機は？

退職後時間に余裕ができたから。
もともと料理に興味があった。

自分で作ってみてどうですか？

楽しい、嫌いではないから。
毎日メニューを考える妻は大変だと思った。

家庭でも作られますか？

当然家庭でもやる。
家では仕事の分担があるので絶対やらない。
気が向けばやる、食器洗いくらいはやる。

得意な料理はなんですか？

玉子焼き、カレー、肉じゃがなど。

料理を楽しみながら、それにも増して試食をしながらの会話が大きな魅力のようです。高齢者だけの夫婦や一人暮らしの家庭が増えています。「男の料理教室」の皆さんのように、自分で食事の支度ができるということはとても大切だと思います。

もっと腕を磨き家族をびっくりさせてやりたいという方もいました。

平成26年度　**男女共同参画社会づくりに向けての全国会議**　内閣府主催

キャッチフレーズ　“紅一点じゃ、足りない。家事場のパパヂカラ”

去る6月27日（金）東京日比谷公会堂にて開催され、全国から1,500人、岡谷市から21人参加しました。

○基調講演とパネルディスカッション

基調講演　≪森　まさこさん≫

特命担当大臣　男女共同参画

≪ブルース・ミラーさん≫

駐日オーストラリア大使

○参加者の感想

◇ 男性の意識改革が必要なのか、仕事の為かまだまだ男性の参加は少ない。ワークショップでは、大企業のトップが出席しており、育休後の職場復帰支援等の報告があった。会場に中小企業の人達が参加していたのかは不明だが、岡谷の企業は人的余裕があるのか疑問。地域で出来ることを考えるしかない。

◇パネルディスカッションではパネリストの伊藤忠商事の岡藤社長のお話は大変納得のいくものでした。若い人たちの労働力が不足し、海外からの移民を考えないと働く人は確保できないと聞きます。女性が結婚、出産後個々にその人に合った支援をし、働き続けられるように配慮しているという。これで男女共同参画が進み女性の地位向上に繋がっていくのではないかと思いました。

◇「女性と男性で輝く社会」そんな社会を実現するために、男性も女性も社会も確実に少しずつ変わってきているという印象を受けました。始めて参加しましたが、男女共同参画社会づくりに向けて、いろいろな角度からのお話を聞くことができて良かったです。

平成26年度　**「ヌエック男女共同参画推進フォーラムに参加して」**

8月30日　場所　独立行政法人国立女性教育会館　（埼玉県武蔵嵐山）

毎年開催されているフォーラムですが、今年は8月29日～31日まで行われました。

市民の会からは30日に3名が「特別講演」と沢山あるワークショップの中から、「市民と行政のパートナーシップ」「男性への男女共同参画の処方箋」「地域における男女共同参画の推進」など実践事例を通して学んできました。

◇特別講演　**「女性の活躍促進と社会の活性化」**　厚生労働事務次官　村木　厚子さん

平成17年に合計特殊出生率が1.26と過去最低になり、少子化が一層進行していることに加えて、死亡数が出生数を上回り日本の人口は減少局面に入ったこと、急速な少子化を招いている社会的要因などについて説得力のある解説がありました。

また、企業の業績と女性役員の関連、女性の就業形態の変化と経済との関連などについても納得できる説明がありました。最後に、信念を貫いたご自身の体験について語られ、女性のキャリアの核心に触れ、感動いたしました。　（小池喜代）

◇ワークショップ**「男性への男女共同参画の処方箋」**主催　男も女も育児時間を連絡会　横浜市

処方箋とは　①「男女共同参画」という言葉を周知徹底させる。

②学校の家庭科男女共修は1989年（H１）からだったので、現在２６歳以下の男性をもりたてて、次世代の担い手にする。

③あらゆる手段を用いて、恋人や妻への暴力は犯罪だと認識させる。

効果的な処方箋があるなら知りたいと飛びつきましたが、今私たちのやっている事を地道に進めながら、誰かが「男女共同参画」を言い続けることかなとあらためて思いました（伊藤綾子）